

望ましい学級集団づくりを目指した 学級経営の向上に向けた OJT 研修に関する研究 —「学級経営メンタリング」の実践ケースを通して—

Research of OJT to improve management for ideal class
— Through using mentoring system of class management studies —

川 見 明 彦

森 保 之

Akihiko KAWAMI

Yasuyuki MORI

福岡教育大学大学院

福岡教育大学

教育学研究科教職実践専攻

教職実践研究ユニット

学校運営リーダーコース

/ 久山町立久原小学校

(令和4年9月5日受付, 令和4年12月20日受理)

要 約

本研究は、望ましい学級集団づくりを目指した学級経営力の向上を目指した OJT 研修の在り方を究明することを目的としている。そこで、在籍校で実践している授業改善のためのメンタリングを学級経営に応用・発展させた「学級経営メンタリング」の実践を行った。実践の際には手順に沿ったメンタリングシートを開発し、実態把握では学級経営早期発見シート、支援計画では課題選択シートなど、支援の根拠となるシートを開発し活用していった。その結果、教職員の学級経営に対する意識が高まるだけでなく、学級経営力の向上が見られた。またメンター・メンティともに学ぶ機会が増え、「学級経営メンタリング」の実践を通してどの年代の教職員にも学びになり、学び合う教職員集団が形成された。

キーワード：学級経営メンタリング, メンタリングシート (学級経営早期発見シート, 課題選択シート)

1 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

今日、大量退職と労働人口の減少等の諸問題に加えて、社会のグローバル化や情報化が急速に進み、将来を予想することが困難な時代になってきている。学校現場においても、大量退職大量採用に対応し、公教育の教育水準を維持・向上を図っていかなければならない状況である。

また、平成29年3月31日に告示された「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」及び平成29年4月に施行された教育公務員特例法等の一部を改正する法律を受け、福岡県は平成30年3月22日

に、福岡県教職員育成指標を作成するなど、主体的に学び続ける教員の育成を挙げている。

(2) 在籍校の実態から

在籍校である久山町立久原小学校は、3年前から、教員の資質・能力向上と業務改善を目指した研究を行っている。具体的には、OJTによる研修体制を構築し、授業改善のためのメンタリングを中心とした校内研修を進めてきた。

この取組の成果として、①学び合う教職員集団が形成された、②若手の台頭だけでなく、ミドルリーダーが成長した、③教職員の時間の使い方が変わり、ライフスタイルに合った研修を進めることができた、などが挙げられる。

一方課題としては、①生徒指導や学級経営等の研修の必要性、②不登校傾向の児童の急増、③若手教員の実践的指導力の育成等、があった。

そこで、これまでに成果の見られた授業改善のためのメンタリングの手法を応用・発展させ、本研究では望ましい学級集団づくりを目指した学級経営力の向上を図ることをねらい、「学級経営メンタリング」を中心とした学び合う教職員集団の形成を目指した研究を進めてきた。

1年次は、学級経営メンタリングによる望ましい学級集団づくりを目指した取組の試行を重ねて、学級経営メンタリングの具体的な進め方を究明していった。

具体的にはQU アンケートから課題を発見し、課題解決のため学級経営メンタリングを行い、その実践をメンタリングシートにまとめ、価値づける中で児童や教職員の意識がどう変容するかを調査し、学級経営メンタリングの在り方を考察した。

〈成果〉

- メンタリングシートを活用した学級経営メンタリングの試行を重ねたことで、学級経営メンタリングのシステムが見えてきた。
- 学級経営メンタリングをしたことで学級経営力を高めようとする意識が高まってきた。

〈課題〉

- QU アンケートの結果からの学級経営メンタリングの実践はできたが、様々なケースについても学級経営メンタリングを実施し、検証していく必要がある。
- 校内研究に位置付け、継続可能な取組にして、研究の日常化を図っていく必要がある。

1年次の実践を踏まえ、2年次は校内研究の柱の一つとして「学級経営メンタリング」を位置付け、日常的に実践していく中で、教職員の学級経営に対する意識のさらなる向上及び学級経営力の向上に向けてマネジメントしていく。

2 研究主題・副題の意味

(1)「望ましい学級集団づくりを目指した学級経営力の向上」とは

河村（2019）は、望ましい学級集団の状態を、自主的な自立的な活動で運営されていく状態であるとまとめている。そこで河村の「理想の学級集団」のイメージを、本研究に適用し、望ましい学級集団を以下のように定義した（表1）。

表1 望ましい学級集団のイメージ

○自由で温かい雰囲気でありながら、集団として規律があり、規則正しい集団生活が送れている。
○いじめがなく、すべての児童が学級生活・活動を楽しみ、学級内に親和的な支持的な人間関係が確立している。
○すべての児童が意欲的に、自主的に学習や学級の諸々の活動に取り組んでいる。
○児童同士の間で学び合いが生まれている。
○学級内の生活や活動に児童の自治が確立している。

(2)「望ましい学級集団づくりを目指した学級経営力向上」とは

河村（2019）は、学級集団づくりを改善することで学級経営力をトータルに高めることができると考えており、学級経営の領域を以下の表のように整理している（図1）。そして、表1にある理想の学級集団のイメージの実現を目指して、資料1にある様々な内容・領域へ各学級担任が実態にあった働きかけをしていくことで、学級経営力の向上が図られていく。

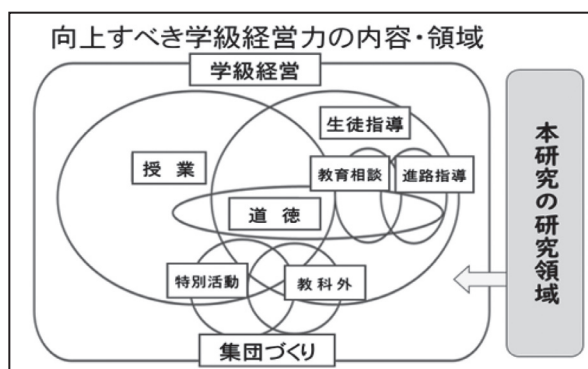


図1 学級経営の領域

(3)「望ましい学級集団づくりを目指した学級経営力向上のためのOJT研修」とは

本研究では、学級経営力向上を目指す「学級経営メンタリング」を導入し、生徒指導や集団づくりなどを含んだ学級経営の領域にて、教職員同士お互いに学び合い、望ましい学級経営力を向上するOJT研修を構築していく（図2）。

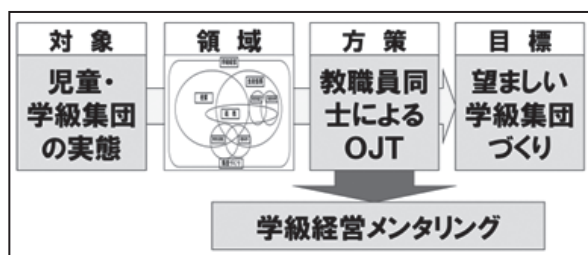


図2 本研究のOJT研修のイメージ

(4) 副主題「学級経営メンタリング」とは

メンタリングとはメンター（指導者）とメンティ（被指導者）がペアになり、自立を促す指導・助言を行い、メンティを育成することである（マーゴ・マリー 2003）。本校で3年前から行っている授業改善のためのメンタリングについては、中村学（2011）「授業者としての実践的指導力を高める OJT」をもとに実施している、持続可能な関係を重視した指導方法を採用している。

本研究で言う「学級経営メンタリング」とは目指す望ましい学級集団を目指してメンティがメンターとメンタリングをしながら、実態にあった学級経営（集団づくりや生徒指導等）に様々な働きかけを行っていき、学級経営力を向上させていくものである。その特徴として、以下の2点がある。

①メンティとメンターの関係

メンティ（被指導者）とメンター（指導者）は、基本的に同学年を中心としたペアリングを行っていく。

メンターは、メンティの学級についての様々な諸問題について、知識や経験の中から、メンティの課題解決に必要なアドバイスや提案を行ったり、精神的なサポートを行ったりして、メン

タリングのキャリア機能及び心理・社会的機能を生かした伴走支援を行っていく（表2）。そしてメンティがよりよく学べる環境を意図的に作っていくことを基本とし、継続的系統的に関わり、場合によっては、専門的な知識を持つサブメンターを招聘し、支援をコーディネートしていく（図3）。

表2 メンタリング機能

キャリア的機能	スポンサーシップ
	コーチング
	保護
	挑戦的課題提示
心理・社会的機能	表出
	役割モデル
	カウンセリング
	受容と承認
	仲間関係

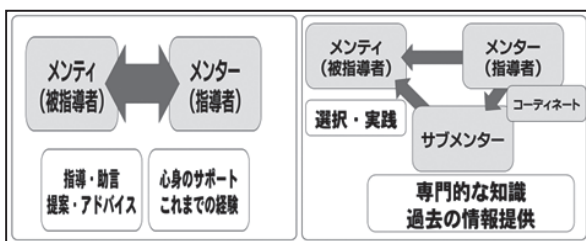


図3 メンタリングの形態

メンティは、学級経営上課題と感ずることや、気になる児童との関わりや集団の関わり方等について積極的にメンターに相談していき、望ましい

学級集団づくりに向け、メンターの提案やサブメンターからの指導や情報提供等を参考にしながら、主体的に支援計画を立て、実践していく。

② RVPDCA のサイクルを活用したメンタリングシートの効果的活用

「学級経営メンタリング」では、RVPDCA サイクルに沿ったメンタリングシートを活用していく。さらに、実態把握段階で学級経営早期発見シート、支援計画段階において課題チェックシートを活用することで、学級経営メンタリングの充実を図る。

ア 学級経営早期発見シートの活用

学級経営についての実態把握は、実際に生徒指導上の諸問題が表面化した時や、アセス・QU アンケート・月一度の心のアンケートなどの回答等で、ある程度、実態把握ができる。しかし、事後やデータだけでは対応が遅い場合がある。

そこで積極的生徒指導の観点から、時系列で児童の気になる場面や様相をまとめた早期発見シートを開発し、未然もしくは早期に児童のサインを発見し、早期対応ができるようにした（表3）。

イ 課題選択シートの活用

メンターはメンティの相談の中から、課題の要因を分析・分類し、アドバイスや具体的な支援計画を考えていく。そこで、学級経営を連携・協力、児童理解、授業づくり、集団づくり、環境整備の5つの領域でまとめたシートを作成した（図4）。

ウ メンタリングシートの活用

早期発見シートを活用した①実態把握、課題選択シートを活用した②目標設定③支援計画④実践⑤振り返り⑥価値付け等のメンタリングの具体的な流れを一枚のシートにまとめていく（図5）。一つの実践ごとにシートを作成し、計画的意図的に実践を行っていくことで、学級経営力の向上を図っていくものである（図6）。

表3 学級経営早期発見シート

学級経営早期発見シート		
場面	番号	具体的な内容
朝の会	①	泣きながら登校してきた。行き渋りが
	②	学校には来ているが、保護者から連絡
	③	あいさつをなく、機嫌が悪い。
	④	朝の登校で保護者に連れられてきた。（同
	⑤	遅刻が常習。
	⑥	休み明け、休み前日に限って休む（理
	⑦	友達とけんかしている。

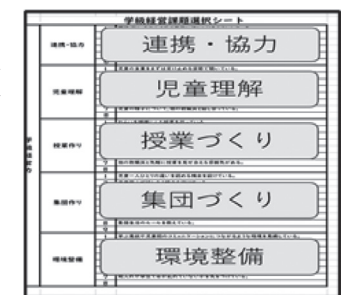


図4 課題選択シート

図5 メンタリングシート

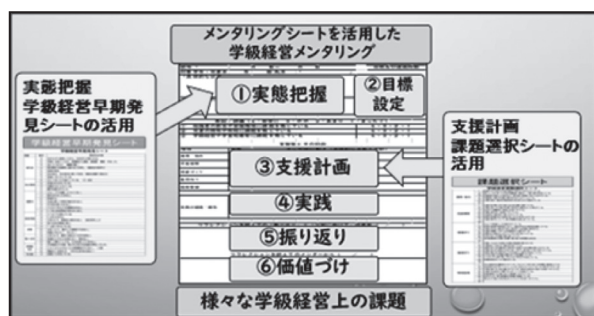


図6 学級経営メンタリングの一連の流れ

3 研究の目的

学級経営メンタリングによる望ましい学級集団づくりを目指した取組を通して、教職員一人一人の学級経営力向上のためのOJT研修の在り方を究明する。

4 研究の仮説

望ましい学級集団づくりを目指して、3つのシートを活用した学級経営メンタリングの取組を行えば、一人一人の教職員の学級経営力が向上し、人材育成が促進されるであろう。

5 仮説説明のための具体的方策

- (1) 望ましい学級集団のイメージを共有化するための研修会
- (2) 学級経営の課題に気づかせるマネジメント
- (3) 課題選択シートを活用した支援計画
- (4) メンタリングシートを活用した実践及びリフレクションのマネジメント

6 研究の実際

- (1) 望ましい学級集団のイメージを共有化するための研修会

まず、職員の目指す学級集団のイメージを共通理解していく必要があったので、イメージを共有化

する研修会を行った(資料1)。

内容は、定義とする河村(2019)の望ましい学級集団のイメージの資料を使って、「目指す姿の共有化を図る」「経営の重点を絞る。」「重点の共通理解を図る。」の3つを行った。実際に4年生の実践でメンティは、目指す姿の「児童の自治の確立」に着目し、経営の重点として「誰でもリーダーになれる」というキーワードに絞っていた。また



資料1 研修の様子

図7 目指す姿の共有化プリント

そのキーワードをメンターと交流することで、お互いに重点や課題の部分等について知ることができ、学級経営に対する意識・関心が高まるとともに、共有化を図ることができた(図7)。

(2) 学級経営の課題に気づかせるマネジメント

今年度は、まず5月を学級経営メンタリングの強化月間と位置づけ、アセス・早期発見シートを活用して、学級経営の見直しをしていった。

4年生では実際にアセスを行い、学級の課題や児童のサインを調査していった(表4)。

表4 K児のアセスの結果

対人適応	適応次元	第1回目	最終回のコメント
	生活満足感	39	生活全般への適応感がやや低くなっています。生活や他の適応度を確認しましょう。
的	教師サポート	54	特になし。
	友人サポート	27	友だちからの支援感がかなり低くなっています。友だち関係の確認とともに、早急な支援が必要です。
	向社会的スキル	46	特になし。
	非侵害的関係	48	特になし。
応	学習的適応	34	学習への適応感がやや低くなっています。学習の様子を確認しましょう。

すると児童のサインとして具体的に「友達との関係が希薄なK児」がデータとしてあがり、学級経営の課題を見直すきっかけになった。分析するとK児の特徴として、友人サポートのポイントが低く、友達作りの観点でなんらかの手立てが必要であることがわかった。

(3) 課題選択シートを活用した支援計画

メンターはメンティの相談の中から、課題の要因を分析・分類し、アドバイスや具体的な支援計画を考えていく。自立を促す指導・助言を進めていく上で、メンターが大切にするポイントは、対話の中で課題を選択していくこと、「アイメッセージ」で提案をすること、伴走支援に徹すること。一方メンティは、状況を話すこと、自分の考えを言うこと、最後は自分が選択・決定することを心がけ、実践へと移していった。

4年生では実際、友達とのかかわりが苦手な K 児に対し、目標を、「5月いっぱいまでに、休み時間を中心に、K 児が自分で良好な友人関係を築けるように働きかける。」とした。そして、その具体的な支援策として、「児童理解」では児童と休み時間に意図的に関わり、好きなことを知る。「集団づくり」では、レベル1：教師と児童の関わり、レベル2：K 児と友達1対1。レベル3：K 児と複数の友達同士へと少しずつ委譲し、見守っていく。「環境整備」では、関わりやすいトランプなどを準備する、などと言った点から手立てを考えていった(図8)。

目標	支援策															
<p>目標及び達成時期</p> <p>K児が自分で良好な友人関係を築けるように働きかける。</p> <p>休み時間を中心に児童の過ごし方を変えていく。</p> <p>5月いっぱいまで。</p>	<table><tr><th>項目</th><th>番号</th><th>支援策とその状況 主な今後の動きや進捗(具体的な方策・方針)</th></tr><tr><td>児童理解</td><td>休み時間 意など</td><td>休み時間にK児と関わる。 K児の好きなことを知る</td></tr><tr><td>授業づくり</td><td></td><td></td></tr><tr><td>集団作り</td><td>トランプ、その他とした</td><td>L1：K児や担任と関わる L2：K児や一人と関わる L3：K児や複数で関わる</td></tr><tr><td>環境整備</td><td>トランプ</td><td>トランプなどの活動の準備</td></tr></table>	項目	番号	支援策とその状況 主な今後の動きや進捗(具体的な方策・方針)	児童理解	休み時間 意など	休み時間にK児と関わる。 K児の好きなことを知る	授業づくり			集団作り	トランプ、その他とした	L1：K児や担任と関わる L2：K児や一人と関わる L3：K児や複数で関わる	環境整備	トランプ	トランプなどの活動の準備
項目	番号	支援策とその状況 主な今後の動きや進捗(具体的な方策・方針)														
児童理解	休み時間 意など	休み時間にK児と関わる。 K児の好きなことを知る														
授業づくり																
集団作り	トランプ、その他とした	L1：K児や担任と関わる L2：K児や一人と関わる L3：K児や複数で関わる														
環境整備	トランプ	トランプなどの活動の準備														

図8 具体的な目標と支援策

(4) メンタリングシートを活用した実践及びリフレクションのマネジメント①

学級経営のメンタリングは、メンターも自分の学級で児童への対応をしている場合が多く、メンティの様子を直接見に行くことができない。



資料2 メンタリングの様子

メンティは児童の変化を見取ること、メンターに細部まで報告し、助言を頂くこと、自分の手立てを振り返ることが求められる(資料2)。

4年生の実践事例では、メンターからのアドバ

イス「児童同士で必然的に関わる場面づくり」の実践において、そのアプローチは当初は「将棋やおセロ」だったが、児童の実態から「お絵描き」に変更した。

すると、想定通り周囲に他の児童が集まってきたので、担任が職員室に用事があると、見に来た児童と交代し、その場を離れた。すると自然発生的に児童同士の会話が生まれていった。メンティはそれを見守りながら、メンターと今後を相談し日常的にK児にも周囲の児童にも声掛けの仕方等のアドバイス行っていた。また、より複数の児童と関われるような手立てとして、トランプやマンカラといったカードゲームや対戦型の遊びを取り入れて、休み時間友達同士でかかわることのできる環境を整備した(図9)。

メンタリングシート	メンターの提案(アイメッセージ)
	休み時間の実践 ①教師と二人で遊ぶ。「将棋など」 ②周囲に児童が集まる。 ③児童同士の空間を作る。 ④K児及び集団に関わり方をアドバイス。
	メンティの実践(自分で選択) 休み時間の実践 ①教師と二人で遊ぶ。「お絵描き」 ②周囲に児童が集まる ③みんなで「お絵描き」 ④もっと広げる。「トランプ・マンカラ」

図9 メンタリングシートの実際

実践後のリフレクションについて、メンティのポイントは、現時点での良さや効果を検証すること、何が身についたのかを振り返ること、新たな課題を見つけることの3点である(表5)。

表5 メンティの振り返りの様子

リフレクションを終えての「振り返り」と「次回に向けて」作成日(5/20) 得意なことを知ること、k児とコミュニケーションを取りやすくなり、どのような場面でk児が活躍できるのか考えやすくなりました。また、仲良く遊べたことを帰りの会などで褒め、クラス全体に波及させていくとよいことも教えていただいた。k児だけではなく、他の児童の得意なことも見つけていきたい。

メンティはK児を通して、支援を必要とする児童に対して意図的に関わる支援の仕方を具体的に学ぶことができたことについて手応えを感じている。そして、その手法をK児への支援だけに終わることなく、その見方やとらえ方でクラスの他の

児童を観察し、時に支援の仕方を応用させるなど、K児を通して、他の児童についても積極的生徒指導の面での関わる力が身につけてきている。

一方、メンターの価値づけでの留意点も、メンターの学びを受容し、称賛すること、価値づけを行うこと、今後の方向性を示すことの3点とした。

実際4年メンターは、メンティへの価値づけとして、「児童が認められたという経験をさせたこと」を良かったと称賛し、集団づくりで大切にしていることを理解してきたことへの評価が行われている。また今後の方向性として、「今回うまくいったことを多くの場面で応用していくことが大切」と示している（表6）。このようにメンターの意図的な働きかけにどれだけメンティが気づき、行動できたかを見取って振り返りを行っていくことでメンティは支援の方法だけでなく、その意図の大切さに気づき学ぼうとする力が高まってくる。

表6 メンターの価値づけ

リフレクションを終えてのメンターから（5/21）	
勉強ができる子や表で目立つ子たちは、これからの人生でもきっと誰かに認められる経験は多いと思います。そうでない子たちに、子どもたちと1日を通して関わるができる私たちが「認められた」という経験をさせてあげることが大切だと思っています。要は、もっと意図をもって子どもたちと関わっていくことで、「手立て」が必然的・計画的になっていくということです。今後は、先生	

実践後、このように、リフレクションの中でメンティの見方・考え方の変化や良さを称賛し、価値づけていく。こういったやりとりが次へのメンタリングにつながり、担任一人一人の学級経営力の向上につながっていくと考える。

(5) メンタリングシートを活用した実践及びリフレクションのマネジメント②

1回目の学級経営メンタリングをもとに、2学期以降も継続して学級経営メンタリングを行っている。今後は本人への支援を中心に、「百人一首」の取組を学級全体に投げかけ、集団づくりを活発にする中で、K児への支援を行っていった（表7）。

表7 2回目の実態把握、目標

記号「※」	9月 6日～ 9月30日	目標及び達成時期
対象学年・児童名	4年 2組 氏名 HK児（男）	
「具体的な状況」	対人関係が希薄なK児。友達に無視されたことがあると訴えたこともあった（4月） 1学期の取り組み以降、少しずつ友だちとの関わりが増えてきて、学級での居心地の良さを実感している。今後は本人への支援を中心にやっていきたい。	百人一首を学級全体で行い、学級全体の夢中になるテーマをもとに、集団作りを進めていく。 9月いっぱい様子を見る。
「メンティの見立て」（原因はどこか、検査の必要性等）	アセスの調査「友人サポート」（27→30）。友達とのかかわりがかなり増えてきた。	

そして、支援計画を作成し、

「連携・協力」では、メンターへ適宜報告し、状況に応じて関われるよう相談する、

「児童理解」では勝ち負けに固執する、仲間外れにするなどの気になる関わりを経験させつつ、より良い方向へいくよう柔軟に対応する、

「授業づくり」では百人一首大会を企画し意欲を高めていく、

「集団づくり」では百人一首を通して学級共通のテーマを作り、友達同士で関わる場を意図的に作り、関係作りを促進する

など、課題選択シートの項目をもとに、様々な支援計画を立てていった（表8）。

表8 2回目の支援計画

支援策とその対応		
項目	番号	主な今後の動きや連携（具体的な方策・方針）
連携・協力	1	児童の様子を適宜メンターに報告し、状況に応じた関わりができるよう、相談を密にしていく。
児童理解	4	休み時間に実態をみて、何気ない会話をする中で、友だち同士の関わり方や関係を着取っていく。気になる関わり（勝ち負けに固執する。仲間はずれにする）にはその場で指摘を行い、よりよい方向へいくよう、柔軟に対応していく。
授業づくり	1 2	百人一首大会を企画し、それに向けて取り組むよう意欲付けをしていく。 活動時間を確保し、児童が主体的に取り組んだり、たくさんの相手と関わったりする場を意図的に作っていく。
集団作り	1	百人一首を通して、学級全体の共通のテーマを作り、友だち同士で関わる場を意図的に作り、その後子どもたちに少しずつ委譲し、少しずつK児を中心とした関係作りを促進していく。
環境整備	1	百人一首がしやすい環境作りをする。

実践ではトラブルがありつつも、百人一首の活動を通して、友達同士の関わりが増えていき、メンターとの相談をもとに、学級が一つのテーマに向かって高まっていった。

リフレクションでは、メンティは、百人一首を通して、たくさんの友達と関わる場面を作って団結力を高めていきたい、友達と関わる良さをさらに実感させたい、などよりよい方向へK児を導こうとしつつ、学級全体も見める視点をもつことも意識するようになっていた（表9）。

表9 2回目のメンティの振り返り

2学期は、百人一首の取り組みを始めた。札を覚えて、休み時間にも遊んでいる子がいたり、普段おとなしい子が、札をたくさん取って活躍したりすることもあり、百人一首をクラス全体で楽しんでいる。また、百人一首には、様々な良い効果があることを先生に教えていただいた。そこで、百人一首を使って、たくさんの友達と関わる場面をつくったり、クラスの団結力を高めたりするような取り組みを行ってきたい。また、K児との関わりについては、対人関係スキルを身につけさせるための準備として、友達と関わる良さを感じてきているこの時期に、多くの友達と関わる場面を作っていきたい。また、2学期はK児との関わりを通して学級全体を見えるという視点をもって学級経営をしていく。
--

また、メンターもメンティの働きかけを称賛すると同時に、次の一手へのてがかりを残したり、百人一首の何が重要なのかを問いかけたりして、価値づけていった。また、今後の支援の方向

性をアドバイスしたり、うまくいったとしてももっと先の姿をイメージしてさらに考えていくべきポイント等を提示したりして、メンティの自立を促していった（資料 10）。

表 10 2 回目のメンターの価値づけ

2学期は「百人一首に取り組み」です。百人一首の取り組みはあくまで「入り口」です。それをきっかけとして様々な仕掛けを打っていくことで効果が期待できます。A先生が書かれているようなランキングやクラス対抗競技がそうです。個の関わりから全体への関わりに発展させていくことがK児にとっても学級にとっても成長のチャンスだと思っています。2回目のアセスの数値が上がったことが一定の効果の証明になっています。しかし、そこで満足しないことです。なぜ、今の手立てが効果的だったのか。その原理まで読み解いていくことが、A先生にとっての今後の武器になります。自分なりに分析することで学級経営を円滑に進めていくための「汎用的な技能」が先生自身身につけていくのではないかと思います。今後も一緒に子どもの変容を見取っていきましょう。

7 全体考察

(1) メンターに関する意識の変容

学級経営メンタリングの実践を振り返ったメンターのアンケート結果及び感想（表 11）からは、「実践することで、自分の実践を振り返る機会ができた」「学年で取り組むという意識が強化された。」など、自分にも学びがあったと感じている。一方、学級経営の枠組みの広さに気づいたり、メンター会議で学年の枠をこえた課題が明らかになったりと、難しさにも直面している。また、その後のインタビューでは、実際にメンティがどのように児童と接しているか見ていないのでその部分が課題と言っていた。

表 11 メンターへのアンケート及び感想

学級経営メンタリングの実践を振り返ったアンケートの結果（4件法）			
4段階評価（4：よくあてはまる 3：まああてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない）		評価	
〇学級経営メンタリング全体について		昨年2月	今年8月
1	1. 学級経営メンタリングを通して、学級経営についての見方・考え方が深まった	3	4
10	2. メンタリングシートを望ましい学級集団づくりに活用できた	2	3
13	1. メンティとどうかわってよいか迷った。どう助言したらよいかわからなかった	2	1
14	2. メンティとかわったことで、自分にも学びがあった	3	4

（メンタリングを振り返って）

- 〇メンター自身が自分の実践を振り返る機会になった。
- 〇「学年で取り組む」という意識が強化された。
- 〇学級経営の難しさ、枠組みの広さに気づけた。
- 〇メンター会議では、学年の枠を超えた課題が明らかになった。

(2) メンティに関する意識の変容

メンティへのアンケート及び感想からは、学級経営メンタリングの効果が随所に見られた。

児童同士の関係づくりについて具体的な手立てを知ることができた、学級全体を見る視点がもて

た、児童に意図的に関わるのが楽しくなったなど、メンターからの学びを自分の指導に生かせることに対する手応えも感じていることがわかった（表 12）。

表 12 メンティへのアンケート及び感想

学級経営メンタリングの実践を振り返ったアンケートの結果（4件法）			
4段階評価（4：よくあてはまる 3：まああてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない）		評価	
〇学級経営メンタリング全体について		昨年2月	今年8月
1	1. 学級経営メンタリングを通して、学級経営についての見方・考え方が深まった	3	4
2	2. 学級経営メンタリングは望ましい学級集団づくりに貢献した	2	4
3	3. いろんな先生の学級経営の仕方や生徒指導の工夫について学びたい	3	4
9	1. メンタリングシートは、児童の実態を把握する上で、有効だった	2	3
10	2. メンタリングシートを望ましい学級集団づくりに活用できた	2	3
11	3. メンタリングシートの活用は、積極的な生徒指導に役立った	2	3
17	1. ペアを決めることは難しかった	2	1
19	3. メンターとかわったことで、自分の学級経営の見方・考え方が変わった	3	4

（メンタリングを振り返って）

メンターのおかげで、児童同士の関係作りについて具体的な手立ての一つを知ることができたことは大きな成果だと思います。今後は、自分なりに活用・発展させて、学級全体を見る視点をもってさらに学級経営を進めていきたい。児童との接し方が少しわかるようになり、児童に意図的に関わるのが楽しくなった。

このように学級経営メンタリングは、メンターから学ぶことで、実際に集団を鍛えることのノウハウを知ることができたり、集団の高まりを実感することができたりできる。

また、リフレクションをすることで、その手法を選んだ意図や今後の方向性を知り、さらに理解が深まっていく。これは、メンティが知りたい学級集団づくりに関する技能をマンツーマンで学ぶことができたことへのプラスの成果であると考えられる。メンタリングが機能していき、継続していくと、メンティの児童との関わり方等への様々なアプローチ能力が高まり、学級経営力が向上し、集団づくりの充実が図られると考える。

(3) 望ましい学級へ向けての到達度

望ましい学級集団づくりの達成度のアンケートを見ると、12月時点ではどの項目も3を超え、特に下部の2項目「学び合い」や「自治の確立」については大きな伸びが見られた（表 13）。

これは、学級経営メンタリングで焦点化した集団づくりに関する継続的な取組の成果として、実際に児童同士の関わりに変化が表れ、担任が児童との関わりを継続して行うことで徐々に手応えを感じた結果だと言える。学級経営が充実してくると、児童同士の学び合いや

自治活動が活発になる。メンティが望ましい学級集団づくりの取組に対して自信をもって行えた成果ではあると言える。

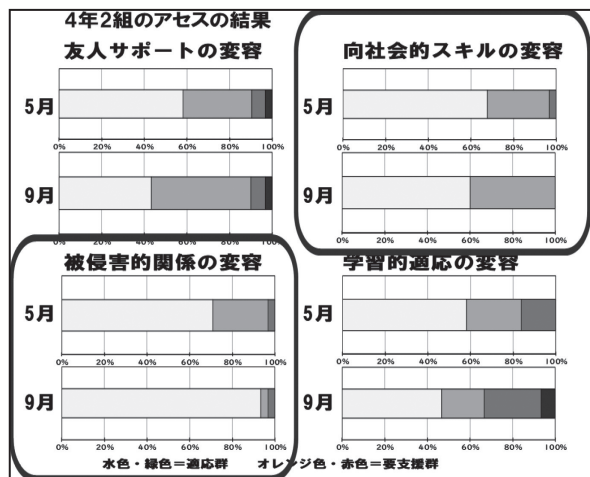
表 13 望ましい学級集団づくりの達成度

望ましい学級集団づくりに向けて	4月	9月	12月
自由で温かい雰囲気でありながら、集団として規律があり、規則正しい集団生活が送れている。	3.7	3.0	4.0
いじめがなく、すべての児童が学級生活・活動を楽しみ、学級内に親和的な支持的な人間関係が確立している。	3.3	3.0	3.7
すべての児童が意欲的に、自主的に学習や学級の諸々の活動に取り組んでいる。	3.0	2.0	3.0
児童同士の間で学び合いが生まれている。	1.0	2.0	4.0
学級内の生活や活動に児童の <u>自治</u> が <u>確立</u> している。	1.0	2.0	3.0

(4) 4年生の学級集団のアセスの変容

実践した4年生の学級集団の5月と9月のアセスの結果を分析した。すると、向社会的スキル・被侵害関係について改善が見られた(表14)。これは、課題選択シートを活用した学級経営メンタリングによる焦点化した実践が、児童同士の関係をよりよい方向へ導いた結果と言える。

表 14 アセス学級集団の変容



(5) 4年生 K 児の変容

実践した4年生 K 児の個人のアセスの結果について分析すると、友人サポート・向社会的スキル・被侵害関係・学習的適応について改善が見られた(表15)。4年担任へのインタビューでは、実際 K 児について、友達とのかかわりについては、学習中・休み時間中에서도、今はそれほど心配しなくてもいいくらいの状況と言っていた。

学級経営の領域は広く、一つ一つの手を打って、即時的な反応が出るものばかりではない。し

かし、このような地道な取り組みの積み重ねが必ず望ましい学級集団に近づいて行っているものと考えてる。

表 15 アセス個表による K 児の変容

対象児 (K 児) のアセスの変容		アセスの変容	
対応状況	第1回目	第2回目	最終回のコメント
生活満足度	39	39	生活全般への満足感がやや低くなっています。生活全般への満足感を高めよう。
教師サポート	54	43	特になし。
友人サポート	27	30	友だちからの支援感がやや低くなっています。友だちからの支援感を高めよう。
向社会的スキル	46	54	特になし。
非侵害関係	48	52	特になし。
学習的適応	34	39	学習への満足感がやや低くなっています。学習の方法をわかり、意欲も高いなど、学習が良好と感じている程度を示します。

8 成果と課題

【成果】

- メンターは、学級経営メンタリングを実践した中で、学び直しができた。
- メンティは学級経営メンタリングを実践したことで、積極的な生徒指導を効果的に行うことができ、学級経営力向上が図れた。
- アセス等の結果から、学級経営メンタリングの取組が望ましい学級集団づくり及び児童の成長に効果的に働いている。

【課題】

- 日常的な気づきが高まるさらなる工夫が必要。
- どの学年にも学級経営メンタリングの良さや効果を共有し、学校が活性化するように、情報を共有し、取組をさらに活性化させるようなマネジメントの推進。

※文中の表5, 6, 9, 10, 11についての分析対象者の記述については、当該者の承諾を得ている。

主な引用・参考文献

- 1) 文部科学省 2015 学校現場における業務改善のためのガイドライン
- 2) 河村茂雄 2019「学級集団づくりのゼロ段階 10-14 頁 図書文化社
- 3) 栗原慎二・井上弥 2016 アセスの使い方 ほんの森出版
- 4) 中村 学 2011「授業者としての実践的指導力を高める OJT」福岡教育大学教職大学院
- 5) マーゴ・マリー 2003 メンタリングの軌跡 PHP 研究所
- 6) 渡辺三枝子・平田史昭 2006 メンタリング入門 日経文庫